

令和5年度(2023年度) 宣真高等学校 学校評価

1 めざす学校像

仏教的な慈愛の精神を基調とした、他者への思いやりを実践できる女性を育成するとともに、社会において自主的・自立的に活躍できる女性となるためのキャリア教育の充実を目指す。

普遍的な心の教育と、可変的な時勢の求める有益な教育内容をよく吟味して、生徒の内面に自分で考えて自分で道を切り開くための教養と気概を育てたい。

そのため生徒一人一人の個性、適性をよりよく伸ばし、生き生きと自己表現できる教育環境を整えていく。

また規範意識、公衆道徳、マナーの面において他者の模範となるような生徒を養成して、地域から信頼される学校作りを地道に持続する。

創立から百年を越える伝統校として恥ずかしくない教育的信用と教育的実績を積み上げていく。

2 中期的目標

1. 学力・授業力の向上と特色・ICT機器を有効に活用する学習指導

- (1) 本年度は1、2年生にタブレット(iPad)がいき渡り、教員もタブレット使用の2年目を迎えたので、授業にとどまらず学校生活全般においてその活用をさらに推進実践して常態化する。また総合的な探究の時間など、教員用ノートPCと生徒タブレットを連動させた各種活動を活性化し、生徒の自発的興味を喚起して思考力、解決力を育成するよう図る。
- (2) 成績が伸び悩んでいる生徒や義務教育レベルの取りこぼしのある学習到達度の低い生徒への対応として、授業内だけでなく、授業外においても個別対応のプリントや呼び出し補講など持続的なケアを行い、学校全体の学力の底上げを図る。
- (3) 放課後習を設定・展開して自発的に学びの機会を広げたい生徒の学力向上の意欲に応じていく。また複数教科において自分の進路に必要な教科を選択できるように、希望制の講習の設定と人員配置に努める。
- (4) コロナ禍において制約のあったコース・エリア独自の特色ある行事をすべて通常開催して、希望する進路に寄与する知識・技能の習得を推進する。総合コースの各エリアの習得内容を精選して、必須と選択の組み合わせを刷新して実施する。

2. 進路保障と進学実績に結び付く指導基盤の確立

- (1) 自分の進路を考え、進んでいく力を養うために診断テストやガイダンスを実施し、進学に有益な情報を不足なく発信・提供して、希望する大学・短大・専門学校等への安定した合格実績を伸ばす。
- (2) キャリア教育の一環として、スキルアップの有効な指標となり得る各種検定や資格試験(日本漢字能力検定、実用英語技能検定など)の成果の向上を引き続き図る。
- (3) 就職希望者への情報提供、事前指導、面接練習を計画的に実践し、就職試験を突破するための社会性・適応力等を伸長させるように図って内定率の向上と安定を図る。
- (4) カウンセリング室体制の運営ルールの周知を徹底して、不登校生の教室復帰、登校の定着、授業参加へとつながるように、カウンセラー・CR担当教員と担任・保護者・教科担当者らが適切な対処をとれるよう情報の交換と共有を図る。

3. 多様な価値観の共有と安心安全な学校生活作り

- (1) 学校生活における規範意識と基本的な生活習慣を健全に育成するとともに、ジェンダーレスへの適切な対応など多様な受け入れ態勢を整えて、公平公正な社会に主体的に参加できる感性を涵養する。
- (2) 生徒が人的トラブルやいじめなどの問題を起こさないよう、また校外で事件事故に巻き込まれることのないように自覚的な防犯、防災意識を育成する。また事故発生時には組織的、機動的に対処して、事案収拾を完遂する。
- (3) 生徒が安全、快適に学校生活を送るため、AED(自動体外式除細動器)・車椅子・手指消毒液の適正配備を始め、熱中症対策やウォータークーラー設置、冷暖房設備増設など施設設備の拡充を行う。

4. 運営体制の適正化と教職員の連携促進

- (1) 校務及び業務実態を適正に把握して、過重な勤務状態が生じることのないよう業務内容の合理化を推進する。
- (2) 効率的な勤務形態のあり方について、担任・副担任・校務分掌も含めた人員配置について人事面での配慮を促進する。

3 本年度の取組内容及び自己評価 肯定的評価 80%以上を達成目標とする。また今年度よりアンケート選択肢にE(わからない)を追加している

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 学力・授業力の向上と特色・ICT機器を有効に活用する学習指導	(1) 1、2年のタブレットを使用した授業等の教育活動を有意義に展開し、教員ノートPCとの連動により自発的に思考力や解決力を育む	a 1、2年に導入されたタブレットを利用して、授業内の活用のほか、課題・提出物の相互利用、日々のクラス・学年連絡の送信など学校生活の利便に供するような用途を広げる。 b 総合的な探究の時間等において、積極的にタブレットやプロジェクトスクリーンの活用を行い、生徒の自発的好奇心の発動を促して、多面的な解決法の発見につなげる。	a 自己評価アンケートの [ICT授業への取り組み] A+B 1、2年の肯定的評価 (前年度比較) 教員の多様な活用法実績 学年の利用状況報告 b 自己評価アンケートの [生き方・ビジョン教育] A+B 肯定的評価 (前年度比較) タブレット使用実績	a [ICT授業への取り組み]の1、2年の肯定的評価 ・1年生徒 81%(前年度 89%) ・2年生徒 74%(前年度 2年はタブレットなし) iPad使用2年目の2年は一定の満足度を感じているようだが、去年同様1年次の満足度は高い傾向がある。ある意味タブレット使用が常態化しつつある過渡期かもしれない、有益な教授法の開発に努める。教員の活用方法も動画や画像を撮影したり編集したりして授業に供したり、小テストを配信するなど方法が拡大し、教科ごとの特性が生まれている。 1、2年クラス運営面では電子黒板を利用した終礼事項の一斉配信、課題連絡、行事予定、提出期限の接近連絡、考査模範解答の配信のほか、クラブ勧誘動画の編集映像作成など多方面で活用している。 b [生き方・ビジョン教育]の肯定的評価 ・教員 94%(前年度 89%) ・生徒 75%(前年度 79%)+ 教員と生徒間に大きな差があり、意図やねらいが双方に十分に咀嚼されていない可能性が高い。導入とまとめを丁寧に準備する必要がある。 総合的な探究では、タブレットで「興味研究」「課題発見」「地域探究」等のワーク、研究発表を実施し、解決を模索する思考トレーニングとなった。
	(2) 成績不振者への授業中、授業後のケアなど継続的な個別指導を実践する	授業時に理解が及んでいないと思われる生徒や中学時代の学習内容にとりこぼしのある生徒などを対象にして、指名補習、プリント課題学習の点検、提出物による平常点の加味などを行い、成績不良により進級・卒業に支障をきたさないよう指導する。	自己評価アンケートの [補・講習への取り組み] A+B 肯定的評価 (前年度比較) 成績不良による原級留置者数	[補・講習への取り組み]の肯定的評価 ・生徒 66%(前年度 70%)…わからない 15% ・保護者 65%(前年度 74%)…わからない 14% 補習指導については例年同様に実施しているので、補習に該当しない生徒保護者は認識しておらず、その数が下降につながったと推測される。成績上のセイフティネットの存在についての周知を図りたい。 5年度も成績不良による原級留置生徒数はどの学年もゼロであった。
	(3) 学力向上意欲に応えるための授業外講習を計画的に実施する	「放課後特別講習」の希望者を全生徒から募り、実施期日の計画書の発表、教科別に希望できる90分授業を実施して、さらなる学力向上を目指す生徒の意欲に応じていく。	「放課後特別講習」の学年別の実施教科、実施回数、実施人数 (前年度比較)	1年 国語・英語 年間 35回 約10名 (前年度 国語・英語 35実施 15名参加) 2年 国語・英語 年間 35回 約20名 (前年度 国語・英語・数学 35回実施 15名参加) 3年 国語・英語・社会 年間 15回 約5名 (前年度 国語・英語・数学 15回実施 5名参加) 各学年とも希望者は前年度とほぼ変わらず、7限目講習として校内で定着している。
	(4) コース・エリア独自の特色のある授業をすべて復活させて満足度を高め、希望進路につながる知識・技能を習得させる	a 総合コースの2年次からの4エリアの特色・目的を検討して、エリア設定科目と選択科目の目的を明確化する。 b 保育系進学コースの大きな体験的学習の一つである「保育フェスタ」、アニメ・アートコースの制作発表「まんが祭」を過去と同規模で再開する。 c 看護医療系コース独自の放課後「校内予備校」(看護医療予備校講師)を継続して計画設定して実施する。	ab 共通 自己評価アンケートの [コース特色満足度] A+B 肯定的評価 (前年度比較) a 総合コース改編結果 b 保育フェスタ実施結果 まんが祭実施結果 c 校内予備校の実施結果	ab [コース特色満足度]の肯定的評価 ・生徒 84%(前年度 92%)…わからない 6% コース独自性のアップデートの不十分さが原因と謙虚に受け止め、各設定のブラッシュアップを図る。 a 総合コースのエリア設定科目をキャリア教育を重視した3講座に増やし、幅広い教養修得を図った。 b11 月夏真ことも園児を招待し、保育系コース生による舞台ミュージカルや体験遊戯コーナーを開催し生徒の計画的実践経験値を高めた。8月講堂にてまんが祭を開催し、全学年のアニメ・アートコース生の作品発表や自己表現の大きな機会の場を作った。 c2、3年看護医療系コース生の学習意欲の向上維持に寄与し、希望者全員の進路決定に寄与した。

<p>2. 進路と進学実績に結び付く指導基盤の確立</p>	<p>(1)自分の進路を考える力を養うための診断テストやガイダンスを計画、進学に有益な情報を発信提供して希望の大学・短大・専門学校への合格率を伸ばす</p>	<p>a ベネッセの診断テスト(ベネッセ)を有効に活用して、診断テストの自己GTZ(学習到達度)の指標SABCDをランクアップさせようとする能動的な向上意欲を誘導する。テスト後の正誤箇所の振り返りを重視して、自己の不得手ポイントを克服する習慣につなげる。</p> <p>b 進学ガイダンスを通して受験に関する情報や疑問に対する相談を行う。自己推薦書・作文の書き方指導、グループおよび個人面接の指導などを丁寧に行う。</p> <p>c 進路希望に則した合格率の向上に努め、進学実績の向上につなげる。生徒本人の希望と適性、学力をよく把握して適正に志望校と入試方法の決定を調整する。特に指定校推薦(特別推薦)枠の有効な活用と振り分けに意を用いる。実力を有する生徒の一般入試対策にも力を入れる。 看護系進学コースからの看護系学校への合格実績について、前年度維持以上の成果を目指す。</p>	<p>a 診断テストの実施回数、GTZの各ゾーン向上度</p> <p>b 進学ガイダンス(会場=池田市民文化会館)の実施状況</p> <p>自己評価アンケートの [進路説明会の設定] A+B 肯定的評価 (前年度比較)</p> <p>c 入試区別、学校種別合格者数と全体に占める割合(前年度比較)</p>	<p>a 全コース 基礎力診断テスト 1年…3回 2年…3回 3年…2回 看護特進コース 実力診断テスト 1年…3回 2年…3回</p> <p>基礎力GTZの推移(上位A・Bゾーン該当率)</p> <p>1年 A 0%→6.7% B 18.9%→17.0% 2年 A 0%→5.4% B 12.3%→6.5% 3年 A 0%→1.0% B 10.1%→9.4%</p> <p>前年度比では、3年の全体GTZは高く1・2年の平均GTZは3年より低いが、半年度ではAゾーン生徒微増、Dゾーン微減なので全体の底上げは果たせたと見える。看護特進コース実力診断テストでは3年がA+Bゾーン17%台を維持しており、他コースに見られる年度後半の下落傾向とは一線を画した。今後も指標であるゾーンのランクアップを奨励する。</p> <p>b 3年対象進路ガイダンス(5/10)参加校 80校 2年対象進路ガイダンス(7/6、11/29)参加校のべ120校 1年対象進路ガイダンス(1/31)参加校 40校</p> <p>[進路説明会の設定]の肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒 82%(前年度 82%) 保護者 75%(前年度 81%) <p>進路説明会や進学情報の提供への肯定的評価も一定80%前後であるが、保護者対象ガイダンスの事前周知の徹底と教育講演などの内容の充実を図りたい。</p> <p>c ●入試区別合格率 (前年度) A0入試 46%(44%)・指定校推薦 40%(40%) 公募推薦 9%(11%)・一般入試 5%(4%)</p> <p>●合格者数と全体に占める割合 (前年度)</p> <table border="0"> <tr> <td>大学</td> <td>122名…45%</td> <td>(128名…39%)</td> </tr> <tr> <td>短大</td> <td>39名…14%</td> <td>(61名…19%)</td> </tr> <tr> <td>専門学校</td> <td>109名…40%</td> <td>(139名…42%)</td> </tr> </table> <p>※上記内、看護系学校 33名(44名)、医療系 20名 去年度より卒業生数が74名少ないが、各割合については微動の変化内であり、A0入試と指定校推薦で早期に進路を決める傾向は継続している。一般入試受験者は今回も13名で今後は増加を望みたい。 合格校は神戸市外国語大学、関西大学、近畿大学、龍谷大学、大阪経済大学、追手門学院大学などで去年度同様に望ましい進学実績となった。</p>	大学	122名…45%	(128名…39%)	短大	39名…14%	(61名…19%)	専門学校	109名…40%	(139名…42%)														
大学	122名…45%	(128名…39%)																									
短大	39名…14%	(61名…19%)																									
専門学校	109名…40%	(139名…42%)																									
<p>(2)キャリア教育の一環として知識・技能習得のスキルアップである検定・資格試験合格の成果向上を目指す</p>	<p>a 漢字能力検定、英語技能検定の受験予定者を対象とした放課後対策指導を計画し、合格率の向上を図る。 また教科主導で推進している各種資格試験の合格に向けた取り組みを継続する。</p>	<p>a 検定の合格者数または合格率(前年度比較)</p> <p>対策指導の形態、付随行事の有無</p> <p>※食物調理技術検定は去年度は2級を実施できなかった。</p>	<p>a 漢字検定 ●年間合格率 (前年度)</p> <table border="0"> <tr> <td>2級</td> <td>16%(20%)</td> <td>準2級</td> <td>36%(34%)</td> </tr> <tr> <td>3級</td> <td>38%(33%)</td> <td>4級</td> <td>39%(50%)</td> </tr> </table> <p>英語検定 ●年間合格率 (前年度)</p> <table border="0"> <tr> <td>2級</td> <td>24%(30%)</td> <td>準2級</td> <td>33%(24%)</td> </tr> <tr> <td>3級</td> <td>66%(45%)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>漢字検定は2、4級の合格率アップのため、タブレットによる自学自習の習慣化を定着させる。 英語検定2級合格者は去年度と同数だが、受験者数が増えたため合格率が低下したと思われる。準2、3級の合格率上昇は英検指導の担当者固定制の成果か。国内短期留学に8名参加したが、今後海外短期留学を視野に語学学習の成果を上げていきたい。</p> <p>食物調理技術検定 ●年間合格率 (前年度)</p> <table border="0"> <tr> <td>2級</td> <td>89%(※)</td> <td>3級</td> <td>85%(94%)</td> </tr> <tr> <td>4級</td> <td>100%(77%)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	2級	16%(20%)	準2級	36%(34%)	3級	38%(33%)	4級	39%(50%)	2級	24%(30%)	準2級	33%(24%)	3級	66%(45%)			2級	89%(※)	3級	85%(94%)	4級	100%(77%)		
2級	16%(20%)	準2級	36%(34%)																								
3級	38%(33%)	4級	39%(50%)																								
2級	24%(30%)	準2級	33%(24%)																								
3級	66%(45%)																										
2級	89%(※)	3級	85%(94%)																								
4級	100%(77%)																										

		<p>b 保育技術検定(保育系進学コース)において高い合格率を維持するよう、セミナー・補講の計画を関係教科・各学年と擦り合わせて策定し、年次合格を経て卒業までに1級を取得できるよう指導する。</p>	<p>b 保育技術検定各級の合格率(前年度比較)</p>	<p>食物調理技術検定は今回2級の受験ができ、各級上昇下降はあるが、少人数制で実習をするモデルパターンを実現できたので、今後もこの形態を進める。</p> <p>b 保育技術検定 ●年間合格率 (前年度)</p> <p>1級 85%(80%) 2級 97%(89%)</p> <p>3級 67%(93%) 4級 94%(100%)</p> <p>各級の合格率が上がっている中で、3級(受験学年=1年)の低さが目立つ。これは1年のみ授業設定のない「授業外講習」の受験分野(造形・言語・家庭看護)が多いため、その時間不足が合格率低下をもたらしたと思われる。次年度からはこの轍を踏まないよう、1年の保育検定用の講習時間を多く確保することを念頭に計画を立てる。</p>
	<p>(3)就職希望者への情報提供、事前指導、面接練習を行い、社会性や適応力を伸ばさせる</p>	<p>a 企業・ハローワークとの連携を図り、はやめに意識づくりをするために、希望者対象に1学期～夏季休暇にかけて就職ガイダンスを計画・実施する。</p> <p>b 挨拶の練習、書類作成のサポート、模擬面接、職場見学の引率などキャリア推進部と第3学年が主となって行い、内定者を増やす。</p>	<p>a 就職ガイダンス等の実施状況</p> <p>b 就職内定者数 (前年度比較)</p>	<p>a 就職希望者ガイダンスを5、6月実施、夏季休暇中に10日間職場見学、履歴書指導期間を設けた。2学期以降の個人呼び出しと面接指導も学年の協力のもと支障なく行われ、今年も売り手市場の波もあってほぼ全員が一回目の受験で内定をいただけた。</p> <p>b 就職内定者 19名(前年度21名)</p> <p>希望者内定率 100%(前年度93%)</p> <p>ロイヤルホテルをはじめ、金森合成樹脂株式会社・第一屋製パン・誂売ゴルフ等、製造・販売・サービス・医療福祉と多方面にわたり就職している。</p>
	<p>(4)不登校生のカウンセリング室体制の支援による登校・授業参加へのバックアップと関係者の連携を強化する</p>	<p>a CR(カウンセリングルーム)生認定、配慮生徒の学年内調整と、考査・行事時の個別対応と出席状態の把握とを、内規(ルール)に基づいて円滑に進める。</p> <p>b 支援教育、見守り対象生徒へ行き届いた細かい対応を行い、関係施設との緊密な連絡をとり生徒の抱える精神的負担を軽減し、進路保障に取り組む。</p>	<p>a 自己評価アンケートの[不登校生に対する進級進路保障のこまやかな配慮] A+B 肯定的評価 (前年度比較)</p> <p>b 関係施設との連携、面談</p>	<p>a [不登校生の進級進路保障の配慮]の肯定的評価・保護者 50%(前年度83%)…わからない40%</p> <p>不登校に関わりのない家庭においては実態や実情をご存じないため、今回新設した「わからない」の選択肢を選ばれたと推察される。否定的評価は9%であった。CRの認可ルールの明文化は保護者の方の理解協力に利する好結果を生み、考査・課題提出においてスムーズなやりとりができています。ICTルームを使用する情報・英語の受講設定は生徒に好評である。ただし試験範囲の提示が、プリントであったりタブレット配信であったり、科目により不統一だという指摘もあり、今後の改善課題としたい。</p> <p>b 関係施設への見守りモニタリング報告、施設職員を交えた面談、情報提供など個々に応じた連絡が不断に続いた。該当生徒が安心して学校生活を送れるよう、今後も誠実に諸機関に対応していく。</p>
<p>3. 多様な価値観の共有と安心な学校生活作り</p>	<p>(1)規範意識と基本的な生活習慣の育成とジェンダーレス対応の基盤を作り、公平公正な社会実現のための感性を確立する</p>	<p>a 「いじめ防止基本方針」の精神に則り、情報モラル、人権意識を高めて自己を要するよう他者へも思いをいたす、自他の存在を尊重する視点を養う。</p> <p>b 基本的な生活習慣の指標の一つとなる「遅刻」件数を減らすよう、担任だけでなく生徒指導係の教員をはじめ全教員が諭し、励ましていく。スマートフォン使用上のマナーも含めた生活指導上の方針について、生徒保護者に根気強く理解を求めめる。</p>	<p>a 自己評価アンケートの[いじめ問題への対応] A+B 肯定的評価 (前年度比較)</p> <p>b 年間遅刻件数 (前年度比較)</p> <p>自己評価アンケートの[生活指導の理解度] A+B 肯定的評価 (前年度比較)</p>	<p>a [いじめ問題への対応]の肯定的評価</p> <p>・教員 81%(前年度86%)…わからない6%</p> <p>・生徒 63%(前年度78%)…わからない14%</p> <p>・保護者 57%(前年度81%)…わからない25%</p> <p>いじめ事案に直接かかわったことのない「わからない」評価の多さが、肯定的評価の下落となったものと思われる。しかし平素から生徒との信頼関係を深める姿勢に揺みがないか、自戒の数値と心得たい。</p> <p>b 年間遅刻のべ発生件数 (その年次学年の前年度数)</p> <p>1年 1164(1057) 2年 1205(821)</p> <p>3年 1058(1467) 年間のべ総数 3427(3347)</p> <p>[生活指導の理解度]の肯定的評価</p> <p>・生徒 70%(前年度78%)…わからない7%</p> <p>・保護者 71%(前年度72%)…わからない4%</p> <p>前年度より2年1クラス増、3年2クラス減(全体で1クラス56名減)という学年構成もあるが、2学期に遅</p>

学校教育自己診断アンケートの結果と分析 [令和5年度実施分]

今回アンケートから「わからない」場合の選択肢 E を追加した結果、肯定的評価 A+B の割合が去年度より目減りしている。

●【学校の特色・学校生活と行事・設備関連】 肯定的評価の割合

- 1[他校にない特色、独自性がある] 生徒 84% 保護者 83%
 2[学校生活は全般的に楽しく充実している] 生徒 74% 保護者 82% 教員 79%
 3[行事は有意義で、積極的に参加できるよう工夫されている] 生徒 75% 保護者 79% 教員 76%
 4[生徒同士や、先生と生徒の仲は良い方である] 生徒 76%
 5[設備、ICT 機器などうまく活用されている] 生徒 72% 保護者 91% 教員 70%

1 本校のエリア・コース制のカリキュラムや独自の行事に対する肯定的評価は、去年度 90%前後から 80%台に減少しているのは、「わからない」に生徒 5%、保護者 8%が流れたことも影響したと思われる。が、期待相応の実績が絶えないように今後もコース生の意義、エリア分けの目的を忘れずに特化させ続けたい。 2 去年度より、生徒・保護者ともに 5 ポイント前後下降しているが、教員は逆に 6 ポイント上昇している。この傾向は次の 3 においても同様で生徒・保護者が数ポイント下降しており、教員は 19 ポイントの上昇を示している。意識の違いといえばそれまでだが、生徒の視点に立って企画運営しているつもりが、現実には若干ズレが生じている現象だと受け止めたい。生徒が求めているものは数年たてば移り変わるので、毎年アンケートや要望の声を拾い上げて、生徒の意識から離れてしまわないようズレを補正したい。 4 去年度 83%と高く、先生と生徒、または生徒同士の距離の近さが温かな校風にもつながっていると喜んでしたが、今年は 7 ポイント下降した。「わからない」の 7%というのが失われた分なのか。ともあれ、慣れ合うのではなく、信頼関係に基づく仲の良さは、悩みの相談や進路の相談のしやすさにも通底する大事な要素なので、80%以上の肯定的評価に復するように努めたい。 5 1、2 年生はタブレット(iPad)を活用しているが肯定的評価は 8 ポイントダウンしている。おそらく役立ったという実感のない生徒が「わからない」と回答した(6%)と思われ、潜在的に ICT 機器の利用に積極的でない生徒の興味を掘り起こす使用法を講じたい。一方で保護者は去年も 9 割の肯定的評価を示し、教員は去年度と同じ割合だった。教員の自己評価が高くないのは、ICT機器・iPad の全機能をまだ使いこなせていないという自嘲を含んだものと考えられる。

●【学習・進路指導関連】 肯定的評価の割合

- 1[先生の授業の内容・話し方はわかりやすい] 生徒 60%
 2[授業を通して知識・技能が身についたと思える] 生徒 68% 保護者 73%
 3[生き方や将来について考えるような指導が行われている] 保護者 74% 教員 94%
 4[進路について適性に応じた丁寧な指導が行われている] 生徒 75% 保護者 75% 教員 75%

1「わからない」9%とはいえ、肯定的評価が 12 ポイント下落している。さまざまな要因が考えられるが、一つには新学習指導要領の学年拡充が進み、教員側の新教材(教科書・副教材)の消化・展開が十全に働いていない点が憂慮される。各教科において教員による教授内容のばらつきがないかを、考査のクラス平均点などを指標にして改善を図りたい。 2 去年度生徒 77%、保護者 81%であり、この減少は「わからない」生徒 9%・保護者 6%とはいえ、各単元の学習の先にある展望や社会生活にどう結びつくのかという視点教育がやや弱くなっている可能性を示唆している。教授方法について、学習のねらいの明確化について、教科内の勉強会を促していきたい。 3 保護者の満足度は 9 ポイント下がり(わからない 8%)、教員は 5 ポイント上がっている。学校の取り組みの意図や頻度について家庭に十分には伝わっていないのではないかと。保護者対象の学年別進路説明会のアプローチに一考を要する。 4 生徒 4 ポイント下降、保護者 6 ポイント下降、教員 2 ポイント下降とわずかずつ去年度を下回っている。一人一人の個性や適性を読み取った満足度の高い進路指導となるように、学年単位で生徒・保護者へ強く浸透させていく。

●【家庭との連携・生活指導関連】 肯定的評価の割合

- 1[家庭との連携、認識の共有ができています] 教員 90%
 2[生徒指導全般において、威圧的にならないよう言葉遣いに注意している] 教員 81%
 3[いじめや問題行動に真剣に対応している] 生徒 63% 保護者 57% 教員 81%

1 例年 90%前後を維持していて、生徒の出席状況や健康状態についてのやりとり、気になる事項についての家庭との情報共有の重要度を厳しく認識していることがうかがえる。 2 近年は教員の不用意な言葉掛けが生徒の心を傷つけているという事案が散見されるため、特に校長より個別、全体への注意があり、研修も実施して生徒の心の負担にならない声掛け指導を心がけている。 3 のいじめ対応については、問題事象と直接間接のかかわりのなかった「わからない」を選択した比率が、生徒 14%、保護者 25%と極めて高く、その結果去年度より肯定的評価が低い割合となったと思われる。しかし学校として全家庭に安心感をもっていたためにも、ふだんから問題発生時の対応の迅速さと公正さの基本姿勢について発信する必要性を痛感した。

●【その他の活動関連】 肯定的評価の割合

- 1[命の大切さや社会規範・公共心、防犯・防災の意識を育てようとしている] 生徒 76% 教員 88%
 2[悩みや相談に親身に答えてくれ、気軽に相談できる先生がいる] 生徒 61% 保護者 64%

1 去年度生徒 82%からの 6%下降に対して、教員は 90%前後を推移しており、ここにも意識のズレが生じていてホームルームや総合的な探究の時間のさらなる有効な設定が求められる結果となった。 2 去年度生徒 64%からの 3%下降(「わからない」11%)、保護者 12%下降(「わからない」17%)となっている。現実には保健室養護教諭をはじめ、担任や部活顧問、学年主任などにクラス、クラブ内の小さな相談や情報提供をしてはいるが、日ごろからの生徒とのコミュニケーションを増やし、信頼関係を築いて、大事に至る以前に生徒の悩みをすくい取るよう努めたい。

【学校評価委員会】からの意見

●特色・行事・設備 ・生徒と教員の意識のズレは多少はやむをえない部分もあるが、そこからのトラブルや不信感が生じないように注意してもらいたい。・タブレットは生徒の方が使用頻度が高いため教員も諸機能を熟知してほしい。・文化祭や体育祭の行事の規模や内容がコロナ以前に戻っても、それで生徒が満足して楽しむかはまた別であると考えべき。●学習・進路指導 ・保護者は長期休暇中の講習をもっと増やしてほしいと望んでいるので計画してはどうか。・本校受験生の多くがAO入試や指定校推薦を望んでいることがよくわかった。・不登校生の進路保障などは、関係ない生徒保護者は「わからない」を選択するので、その分肯定的評価が下がっても気に留める必要はないと思われる。●家庭連携・生活指導・その他 ・いじめへの徹底的な取り組みは、事故事案に係わらない一般生徒にもここまでやってますとアピールしたらよいのでは。・身体的、健康的な面での弱者が学習しやすい設備があるのはうれしい。・そもそも教職員アンケートの回収率が低いので、自己評価の意義を再度認識してもらって提出・回収率を上げてほしい。